



No. 174

ティークレイク

Tea Break

武蔵国分寺を訪ねる

会員 三宅 正夫

尋常小学国史（文部省発行，昭和2年翻刻，小学校5，6年生徒用国定教科書）上巻，34—37頁に“和銅3年⁽¹⁾（元明）天皇は都を大和の奈良にさだめたまえり。・・・これより御7代70余年・・・この間を奈良時代といふ。奈良時代の中にて最も盛なりしは第45代聖武天皇の御代なり。・・・聖武天皇は，あつく仏教を信じたまひ之をひろめて世の中を太平にみちびかんとおほしめされ，国ごとに国分寺を造らしたまへり。ことに奈良には大和の国分寺として東大寺を建て，大仏を鑄て之を置かしたまへり。・・・”と記されている。国分寺は僧寺と尼寺との対になっているが，尼寺が現存しない場合もある。僧寺は上記の東大寺を，尼寺は法華寺（奈良）を夫々総国分寺とする。

東京で「国分寺」というと，多分「国分寺市」と思われる。JR中央線「国分寺」と「西国分寺」との2駅にまたがり，「国分寺」駅では西武電鉄の多摩湖線，国分寺線と，「西国分寺」駅ではJR武蔵野線と夫々連絡する。国分寺市の名前は上記の「国分寺」が武蔵国の国府（現府中市）に近く，而も都に通ずる東山道武蔵道沿いの湧水が豊かな当地に置かれたことに由来する。

現存するのは武蔵国国分寺，楼門，武蔵国分寺跡，武蔵国分尼寺跡で前の三者は中軸線上に並び，最後の尼寺跡は上記軸線から少し離れている。

1. 武蔵国国分寺

門柱が「武蔵国」と「国分寺」との2つに分れている。この寺に「国分寺」と云う名がついているが第1節のものとは似て非。というのは本来の国分寺が分倍河原の戦い〔元弘3年（1333年）〕で焼失したので，後日新田義貞が寺域の一隅に建立したものであるからで，寺の規模も市の中に見られる中小寺と大差ない（『江戸古寺70』小山和，NTT出版）。むしろ万葉植物園。当時の歌人が好んで題材にした植物を集めたもので現在160種が植っているとのこと。

2. 楼門

上記1の寺の付属物で，その門前に建つ。間口3間（約6.2m），奥行2間（約3.7m）。楼門造り板金葺。米津出羽守の元菩提寺として建てられた米津寺の楼門（2階建）を明治28年当地に移築したものという。

3. 武蔵国分寺跡

上記2の南方約50m，一面に広がる野原。当寺は天平13年（741年）に建立され，東西約1.5Km，南北約1Kmに及び，その寺域は国分寺の中でも最大であった。僧寺と尼寺との2つの跡地がある。

A. 僧寺跡

A-1 講堂跡（工事中）

寺域内で最北に位置する矩形台地で，周囲を瓦で化粧された基壇（約34m×22m）が作られている。その上に昔の講堂を再建する予定なのか不明。

A-2 金堂跡

上記講堂の南，一段と高い台地で，原っぱの中央に「金堂跡」の低い角石柱がひっそりと建つ。往時の礎石19箇所が散在しているが，それらが一定の間隔で配置されているとは思われない。台地南縁に「史跡武蔵国分寺跡」の石碑あり。

A-3 七重塔跡

僧寺南東隅に位置する。金堂跡より南東約100m。承和2年（835年）雷火で焼失し，礎石のみ存在。塔は2基あったと言うが1基跡のみ現存。

序でながらこの跡地から西に約40m寄った地点は例の3億円事件⁽²⁾で現金輸送車と乗用車との交替と，現金の積替とが行われたという隠れた名所（?）。

A-4 僧房跡

講堂と金堂との中間の東に位置するが，平成28年11月現在発掘調査中。

B. 武蔵国分尼寺跡

上記僧寺の金堂を後に西約400m，広い府中街道を横

断、街道沿いに走る JR 武蔵野線ガード下をくぐったところ右手一面に、きれいに造成されている。当時は東西約 150m、南北 160m の範囲内に、南大門（推定）、中門、金堂、講堂（未確認）、尼坊が南北中軸上に配置されていた。尼坊跡は整然としており礎石が一定間隔に並び、その西端は北方に向う伝鎌倉街道（谷間の狭い道で両側は灌木帯）に連なる。

（注）

- （1）西暦 710 年
- （2）昭和 43 年 12 月 10 日、府中市内で輸送中の東芝工場用ボーナス 3 億円が、白バイ警官に扮した

犯人に輸送車ごと盗まれた事件。犯人は未だ捕まっていない。

交通：

国分寺：JR「国分寺」駅南口、右斜に走る道（多喜窪通り）の坂（左側）を上り切ったところに現れる「お鷹の道」の案内板に従い左折、崖を下ると、右に「真姿の池」、左に湧水。前方右、東屋角を右に。小川沿いの石畳道（お鷹の道）を進むと前記楼門。駅より約 1Km。徒歩約 20 分。

尼寺：JR「西国分寺」駅南口、史跡通り又は府中街道を南下約 1Km。